

# 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を 理解しよう

- 001 正確な知識とスキルを身に付けることが儲けの近道 ..... 27
- 002 FXで儲ける方法はたったの2つ ..... 28
- 003 取引するときは「まとめ買い」が基本 ..... 29
- 004 効率的に利益をあげる仕組みが「レバレッジ」 ..... 30
- 005 最初は間違いやすい「アスク」と「ビッド」 ..... 31
- 006 金利の高い国の通貨はスワップ金利が魅力 ..... 32
- 007 外貨預金より圧倒的に有利なFX ..... 33
- 008 円高でも儲けられるのがFX最大のメリットの1つ ..... 34
- 009 FXで儲けるためには「4つのスキル」を理解しよう ..... 35

■ **コラム** ちょっとタメになる「ケーザイ・経済」ゼミナール  
「円高」になると、どうして日本は不況になるの? [2] ----- 36

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 001

正確な知識とスキルを  
身に付けることが儲けの近道

外国為替証拠金取引の口座をFX会社や証券会社に開設すれば、取引はすぐに始められます。しかし、「どの点に注目して売買すべきか」「やってはいけないこと」などを理解してからでないと長続きはしません。`投資、は、「長く続けられること」から、すべてが始まるからです。

外国為替市場のアウトラインがだいたい分かったところで、金融商品としてのFXの仕組みについて解説しましょう。

市場の仕組みだけでなく、商品や取引の仕組みをしっかりと理解することはとても大切です。なぜなら、何事にもメリットとデメリットがあり、それを理解しているかどうかで、後々の取引成績に大きな差が生じてくるからです。

株式投資でもそうですが、FXを利用して外国為替取引を始めるといっても、試験もなければ、免許もありません。つまり、FX会社や証券会社に口座を開設して、お金さえ用意すれば、誰でも取引できるものなのです。

## ▶▶ 試験も免許もないから、しっかりとした理解が大切

人は、お金を儲けたいと思うものです。裏を返せば、1円たりとも損をしたくないわけです。そして、「できるだけ、たくさんのお金を早く儲けたい」と意気込んで、投資を始めようとします。これが`人情、でしょう。



しかし、功を焦って、儲けることばかりを意識しても、うまくいくものではありません。外国為替市場はどのような規模で、どんな人たちが市場に参加していて、そして、その仕組みはどうなっているのかを理解し、利益をあげるためのスキルやノウハウを身に付ける必要があるからです。

最初は面倒でも、**できるだけ正確な知識を習得し、お金をかけないデモトレードで感覚を養い、そして本番の取引へと移ることが利益をあげる近道**です。先ほど、「試験もなく免許も必要ない」と書きました。何の知識やノウハウを身に付けなくても、明日、いや今日からスグに取引を始められますが、やはりそれでは心細いといわざるを得ません。

この第2章では、FXの仕組みから、実際に取引するときの判断材料と注意すべき点について解説していきます。ときに、初めて目にする言葉も出てくるでしょう。「ほんとなの?」ということがあるかもしれません。しかし、最初は「まず信じて、斜めから物事を見ず、正確な知識を身に付ける」ことに集中してください。利益をあげる極意は「素直」です。

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 002

FXで儲ける方法は  
たったの2つ

外国為替相場は「上がるか」「下がるか」。この二者択一が、FXで利益をあげる基本ルールで、確率は2分の1。とても簡単そうです。ただ、「下がる」と考えたときのルールは、普段の感覚からすると馴染みがありません。この点を理解し、上下どちらに動いても対応できることが大切です。

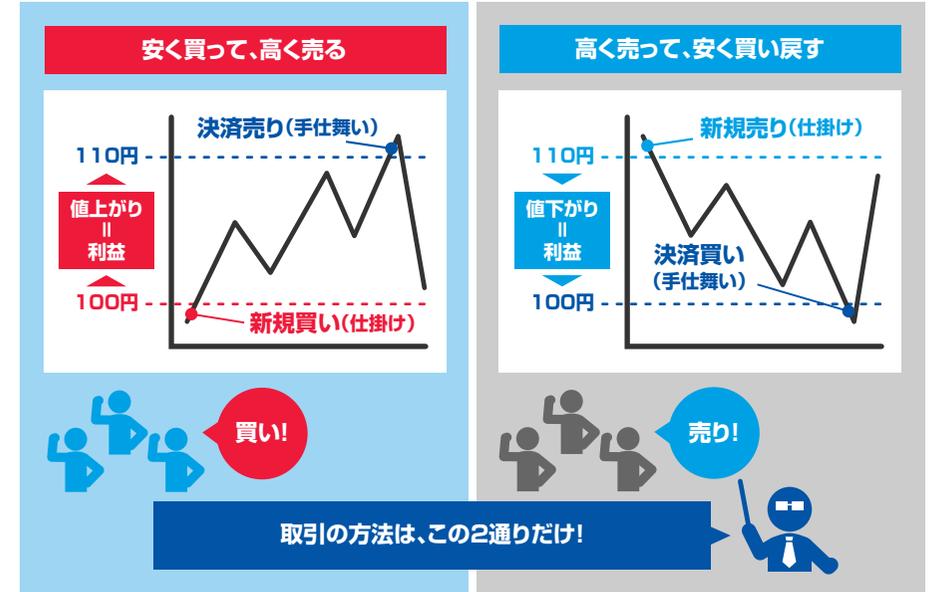
FXで利益をあげる方法は、たったの2つ。「安く買って、高く売る」か、「高く売って、安く買い戻す」しかありません。当たり前かもしれませんが、ルールはこれだけです。

たとえば、いま現在、ドル／円の価格が100円なら、今後110円になる、つまり「円安」になると考えれば、100円で買って110円で売れば、10円の利益になります。また、ユーロ／円が130円しているとき、この先、100円まで下がると考えれば、130円で売って、100円になったら買い戻せば、30円の利益になります。10円とか、30円の利益の話で「何だか、しょぼいな〜」と思われるかもしれませんが、ちょっと待っててくださいね。

## ▶▶ 新規と決済で取引は完結

通貨ペアを選んで、最初に買うことを「新規買い」、売ることを「新規売り」といいます。この2つをまとめて「仕掛け」ということもあります。英語では「エントリー」です。FXは、実際に「円」を「ドル」に替える

## ▶ FXで儲ける方法



わけではありませんから、最終的には必ず逆の取引、つまり「決済」をしなければなりません。したがって、買ったドルを引き出して、海外旅行などに利用することはできません。

逆の取引は、「新規買い」に対して「決済売り」、「新規売り」に対して「決済買い」という組み合わせになります。「新規」に対して「決済」することを「反対売買」といって、この差額が利益になったり、損失になったりします。ちなみに、「仕掛け」に対しては「手仕舞い」、「エントリー」に対しては「エグジット」です。日本語でも英語でも構いませんから、どれかひとつの組み合わせを覚えてくださいね。

ところで、「安く買って、高く売る」という取引は非常に一般的で理解しやすいのですが、「高く売って、安く買い戻す」というのは、あまり馴染みがないかもしれません。そのため、「ちょっと分かりにくいな〜」と感じるでしょうけど、今は取引の方法が2種類しかないことと、その名前をしっかりと覚えましょう。だんだん分かってきますから、ご心配なく！

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 003

取引するときは  
「まとめ買い」が基本

FXが投資家の目に魅力的に映るのは、少ない資金で比較的大きな取引ができるからです。言い換えれば、投資家が用意したお金を効率良く運用できることにあります。この仕組みが、FXで最大の特徴であり、投資家である皆さんが取引を始める前にしっかり理解しておきたいポイントです。

前項では、「10円や30円のしょぼい利益」の話をしましたが、実は100円ずつ取引するわけではありません。たとえば、1ドルが100円のドル/円ならば、この1万倍、つまり1万ドル分の取引をするのが基本で、まとめ買い、をするわけです。これを「1万通貨単位」といいます。

「1ドル100円なら、100万円分もいっぺんに取引するの!? そんなにたくさんのお金が必要なの?」とビックリするかもしれませんね。この点については、じっくり解説していきますね。

## ▶▶10円の儲けも1万倍なら話は別!

「しょぼいな～」と思われた10円や30円も、それが1万倍なら利益は10万円や30万円になります。とはいえ、FX会社によっては1,000通貨単位や100通貨単位というように、より小さい単位で取引できます。投資家のニーズに応じたラインアップが揃っているわけです。つまり、1ドル100円の時1000通貨単位なら取引総額は10万円というわけ。これなら安心で

## ▶まとまった単位の取引



## ▶小さな単位の取引



すね。もちろん、投資金額が小さいと儲ける金額も少なくなります。

## ▶▶まとめ買いをしても、実際に用意するのは少額でOK

すでに書いたように、FXは日本語で「外国為替証拠金取引」といいます。「証拠金取引」とは、「取引する総額に対して、一定の割合のお金を用意すれば良いですよ」という仕組み。具体的に、1ドル100円のために1万通貨単位で取引するケースを考えてみましょう。

このときの投資金額は100万円ですが、通常のFXは20万円前後も用意すれば充分です。もちろん、100万円を用意したほうが良いのですが、それでは敷居が高くなり、資金効率は落ちてしまいます。ここで用意した「20万円前後」のお金を「証拠金」といいます。1,000通貨単位で取引するのなら、証拠金は2万円もあれば充分でしょう。最初から、たくさん証拠金で取引するより、少額の証拠金で取引に慣れることが大切です。

次項では、証拠金の仕組みについて、さらに詳しく解説しましょう。

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 004

効果的に利益をあげる  
仕組みが「レバレッジ」

少ない資金で大きな取引をするのは魅力的です。儲かるときには、それは想像以上に儲かるからです。しかし、何事にも道理があります。欲を出しすぎると、しっぺ返しにあうのが世の常。適正なレバレッジを理解した上で取引をすることが、少しずつでもしっかり儲けつづける秘訣です。

「取引総額」と「証拠金」の関係について、もう少し掘り下げてみましょう。前項では、「1万通貨単位で100万円の取引をするとき、証拠金は20万円前後もあれば充分」と書きました。

たとえば、FX会社に開設した口座に20万円の証拠金を入金したとしましょう。そして、**1ドル100円で1万通貨単位（100万円分）の取引を始めた**とすると、**取引総額に対する証拠金の割合は20%**。これを逆に見ると、**証拠金に対して5倍の取引をしている**ことになります。**取引総額に対する証拠金の倍率を「レバレッジ」と**いいます。

もしも、取引総額に対して100万円の証拠金を用意すれば、レバレッジは1倍となり、感覚的には預金をしているのと同じ状態になります。

## ▶▶低いレバレッジで「堅実な投資」を目指す

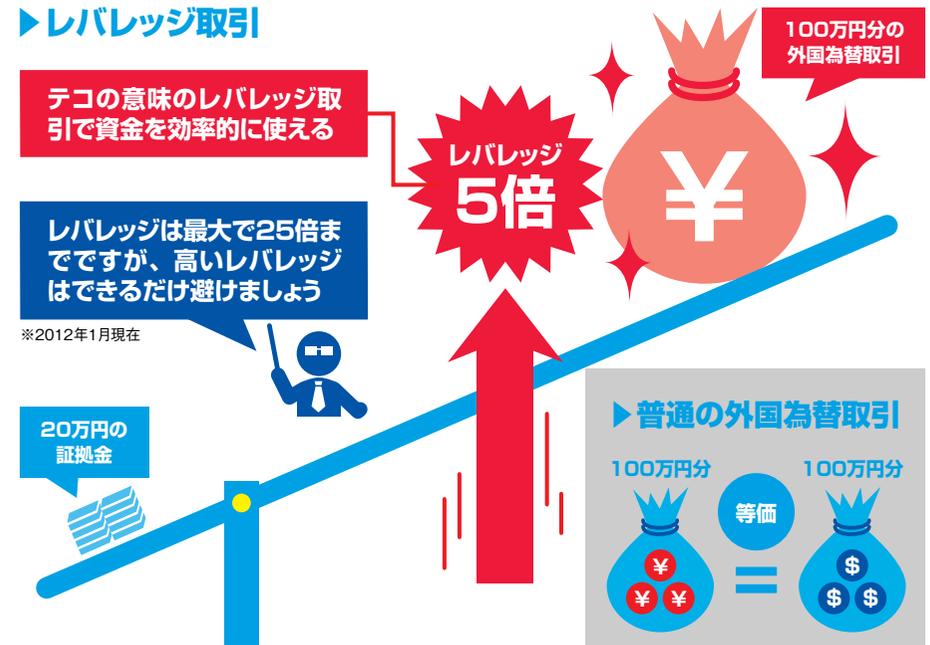
FXが個人投資家の間で人気になったのは、少ない証拠金で大きな取引ができるからです。いわゆる、「高レバレッジ取引」というものです。

## ▶レバレッジ取引

テコの意味のレバレッジ取引で資金を効率的に使える

レバレッジは最大で25倍までですが、高いレバレッジはできるだけ避けましょう

※2012年1月現在



少し前までは400倍とか500倍というレバレッジで取引できましたが、高いレバレッジは健全な投資を損なうと規制されました。高いレバレッジで取引すると儲かるときはものすごく儲かりますが、同じレベルで損をする可能性があるというわけです。やはり堅実に儲けるためには、最高で10倍が限度、3～5倍の低いレバレッジで取引することが望ましいでしょう。

ところで、証拠金を定額にしているFX会社があります。たとえば、「1ドルが90～100円のドル／円を1万通貨単位で取引するときの証拠金は4万円」「1ユーロが130円のユーロ／円を1万通貨単位で取引するときの証拠金は5万2,000円」というようにです。

この場合のレバレッジはおおよそ25倍ですが、これは金融庁の指導により国内のFX会社が最低限必要な証拠金として決めているだけです。そのため実戦でのレバレッジの目安は、高くても7～8倍程度に抑え、3～5倍前後に収まるにしましょう。そうすれば、精神的にも余裕のある取引ができるようになります。余裕を持った取引を心がけましょう。

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 005

最初は間違いやすい  
「アスク」と「ビッド」

ニュース番組や新聞で見聞きする為替レートは中値といって、外国為替を買うときのレートと売るときレートのちょうど真ん中のレートのことです。つまり、為替レートには2種類あり、この差が、FX会社にとっては収益になり、投資家からするとコストになる、というわけです。

外国為替のレートには2種類あります。これはFXに限ったことではなく、海外旅行へ行くときにドルやユーロといったキャッシュや現地通貨のトラベラーズチェックに替えるときも同様です。たとえば、銀行などで円をドルに替えるときは102円、帰国してドルを円に戻すときは100円というようにです。

## ▶▶FXの代表的なコストが「スプレッド」

ニュースなどでは「今日の為替レートは1ドル101円です」ということがあります。これは「中値」のこと。実際には、**売りと買いで為替レートに差があり、これを「スプレッド」といいます。**以前に比べて小さくなってきましたが、それでもスプレッドは必ずあります。スプレッドがFX会社の収益になるわけですから、これだけは仕方がありません。

そして、売るときと買うときの為替レートには、それぞれ呼び名があります。**投資家が買うときのレートが「アスク (Ask)」、売るとき**

たとえば、アメリカへ旅行するときに、円をドルのトラベラーズチェックに交換すると



ドル/円レートが100円のときにトラベラーズチェックを購入



## ▶FXのレート表示

たとえば、ドル/円が100.00円の場合は



が「**ビッド (Bid)**」です。入門したばかりの方は、間違えることが多いので注意してくださいね。

といっても、覚えるのは簡単です。投資家にとって「不利なレート」と考えれば良いわけです。ドル/円を例に具体的に説明しましょう。

為替レートは通常、99.99円と100.01円というように表示されています。この差0.02円（2銭）がスプレッドです。そして、アスクが100.01円で、ビッドが99.99円。高いレートで買い、安いレートで売らなくてはなりません。これは「新規」「決済」とも同じです。

仮に、買いと売りを同じタイミングで注文したら、2銭のロス（損失）となります。スプレッドは通貨ペアによって異なり、ドル/円やユーロ/ドルは狭く、ポンド/円や豪ドル/円はドル/円に比べて広いのが一般的です。また、対円通貨ペアのレート表示は、少し前までは小数点第2位までが普通でしたが、最近では小数点第3位まで表示するのが一般的になりました。これはスプレッドをより小さくするのが主な目的です。

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 006

金利の高い国の通貨は  
スワップ金利が魅力

少ない証拠金で大きな取引ができるFXでは、取引をする通貨ペアによって金利を受け取ったり支払ったりします。特に、低い金利の通貨を売って、高い金利の通貨を買えば、受け取ることのできる金利はとても魅力的。2つの国の金利差が大きいほど、そのメリットは大きくなります。

日本は長らく超低金利の状態が続いています。そのため、銀行に預けても雀の涙ほどの金利しか付きません。景気が悪いときは金利が低くなる傾向にあるからです。ところが、好調な景気が続くと、金利はだんだん高くなりますが、このメカニズムについては、第4章で詳しく解説します。

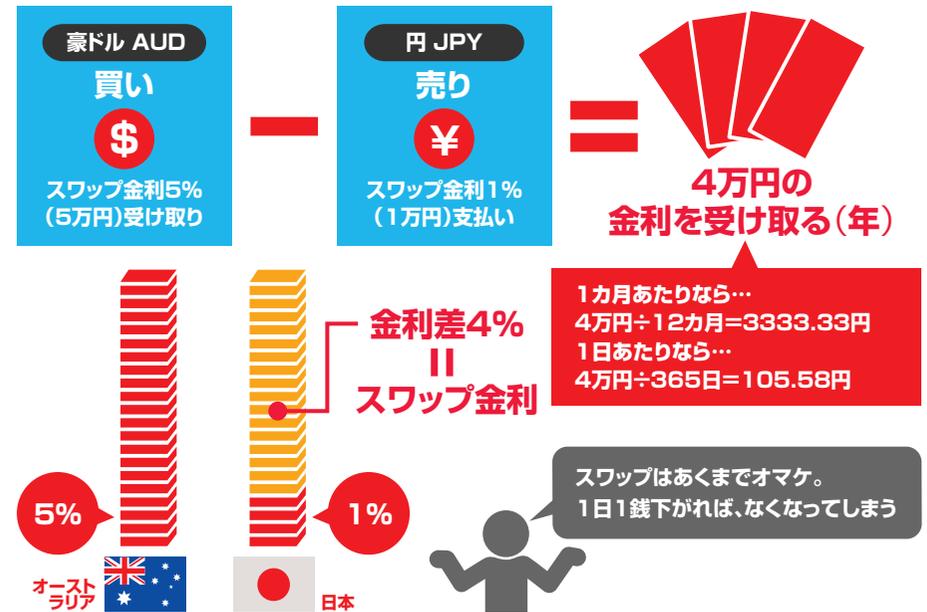
ここでは「国によって経済の状況が違う以上、それぞれの金利水準は異なる」ということだけを覚えてください。**FXで取引するときにも、金利を受け取ったり支払ったりします。これを「スワップ金利」といいます。**

## ▶▶各国の金利差が縮小し、今では魅力に欠けるスワップ金利

日本の円とオーストラリアの豪ドルを例にしてみましょう。日本の金利が1%、オーストラリアの金利が5%だとします。計算しやすいように豪ドル/円の為替レートが100円だとすると、1万通貨単位を買うと100万円の取引になります。

豪ドル/円を買うということは、金利1%の円を売って、金利5%の豪

◎豪ドル/円が100円のと看、1万通貨単位(100万円)を新規買いとすれば……



ドルを買うわけですから、金利差の4%分に相当する4万円を受け取れます。ただし、これは1年間保有したときに受け取れる金利で、実際には日割りで計算されます。仮に1カ月間、豪ドル/円を買ったままにしていると、4万円の12分の1の約3,333円になります。

一方、同じ金利と為替レートで豪ドル/円を売った場合は、買ったときとは逆に1年間の保有なら4万円、1カ月間なら3,333円を支払う必要があります。ただ、買いと売りとはスワップ金利が微妙に異なります。実際には、FX会社が1日あたりのスワップ金利を買い、売りのそれぞれで表示していますから、いちいち計算する必要はありません。

数年前までは、日本を除く主要な国々の金利が高かったため、円を売って外国の通貨を買えば、かなり高いスワップ金利を受け取ることができました。スワップ金利が相当な金額になることも、FXが投資家の注目を集めた理由でもあります。しかし、2008年秋以降は世界同時不況になり、主要国は金利を低くしているため、スワップ金利の魅力は薄れています。

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 007

外貨預金より  
圧倒的に有利なFX

FXは、少ない資金で大きな取引ができて効率が良いということで、個人投資家が注目しています。ところが、2008年に発生したリーマン・ショック以降は、FXを外貨預金の代わりに使う個人投資家も増えています。外貨預金に比べて、あらゆる点でFXが有利だからです。

外貨預金が相変わらず人気です。銀行で取り扱っている外貨預金は、高い金利の国に定期預金として預ける金融商品です。しかし、外貨預金には明らかな問題があります。こういふと、外貨預金をしている方はビックリされるかもしれませんが、悪い商品だといっているわけではありません。

何が問題かという、円高になったときには損失を被るおそれがあることです。日本では定期預金にしても、雀の涙ほどの金利しかつきません。ところが、6%や8%といった金利を受け取れると聞けば、誰だって魅力を感じるはずですが。

ところが、この高い金利は為替レートが動かなければ、ちゃんともらえるわけですが、為替レートが動かないなんてことはありません。つまり、**外貨預金をしているときに円高になれば、高い利息を受け取れても、日本円に戻すときには元本が目減り**してしまいます。しかも、利息にはしっかりと税金がかかりますから、まさに「泣き面に蜂」ですね。

もちろん、円安になれば、高い金利だけでなく為替差益を手にすること

	外貨預金 (定期)	FX (外国為替証拠金取引)
金利	これが目的	スワップ金利(オマケ)
スプレッド	かなり広い	とても狭い
解約	期限まで保有 途中解約には手数料	取引しているときは 24時間売買可
値上がり 値下がり	あり	あり <b>圧倒的に有利!</b>
円高リスク	あり	円を 買えばなし
税金	金利の20%	スワップ金利 +利益の20%

FXは外貨預金としても使えるし、機動性も抜群!!!

ができますが、その逆もあることを理解しておく必要があります。

## ▶▶FXを外貨預金の代わりに利用する人が急増

FXを外貨預金の代わりに利用する人が急増しています。なぜかという、FXは円を売るだけでなく、円を買うこともできるからです。要するに、円高になりそうなときは、外貨預金をせずに、FXでドル/円やユーロ/円を売っておくというわけです。

FXを外貨預金の代わりに使うメリットは他にもあります。**外貨預金のスプレッドはFXに比べて、ものすごく広いため、為替レートが動かなくても、スプレッド分の為替差損が発生**します。また、機動力の点でも大きな差があります。外貨預金の場合は、1日に1回、その日の為替レートが決まります。それ以降は為替レートが急に動いても為替術がありません。リーマン・ショックのときは、ドル/円が一晩で10円も円高になりました。FXは24時間いつでも売買できますから、これも大変な魅力ですね。

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 008

円高でも儲けられるのが  
FX最大のメリットの1つ

ニュース報道では、円安のメリットと円高のデメリットばかりをクローズアップします。でも、本当に怖いのは超円安。資源や食料品などの輸入品が高騰して物価は上昇、円の価値も猛烈に下がります。FXは、超円安による円の価値の目減りを防ぐ目的にも活用することができるのです。

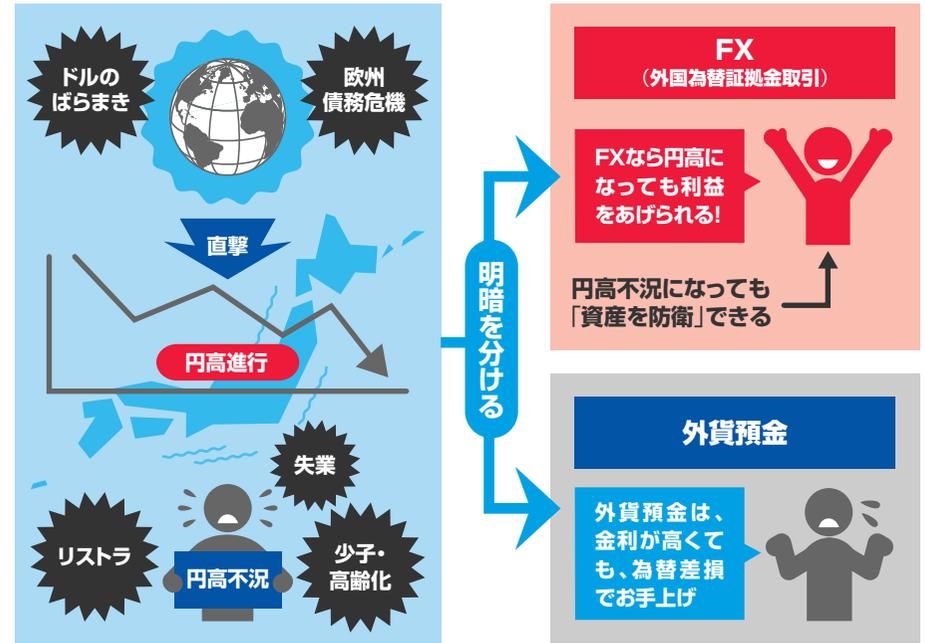
FXの魅力を外貨預金と比較して解説しました。しかし、それだけではありません。「投資」としてのFXは、他の金融商品に比べても有利です。

たとえば、株式投資をするときは、ほとんどの場合、株価が上がらなければ利益をあげることはできません。要するに、円高で不況になれば、輸出企業の業績は悪くなりますし、日本経済全体も元気がなくなってしまいますから、株式投資で利益をあげるのは難しいでしょう。これは、個人投資家に人気の投資信託やファンドにもいえることです。

## ▶▶不況になってもFXは強い

ところで、数年前、石油などの資源価格が高騰して、ガソリンの値段が跳ね上がりました。しかも、このときは円安傾向でした。

円安になれば、企業の業績が上がるはずですが、資源のない日本は、これらを輸入しなければなりません。そのため、円安は企業や家庭のコストアップにつながります。



すると、企業は売上が減らなくてもコストがアップしたことで利益が減ってしまい、家庭では節約に対して敏感になり、これもまた景気の足を引っ張ってしまいます。資源などを扱う会社は利益が出て株価が上がっても、経済全体ではマイナスとなり、やはり全般的に株価は上昇しません。

こういうときは円安になりやすいですから、FXでは円を売ってドルなどの外貨を買うという取引をすれば利益をあげることができます。ちなみに当時は、海外の先進国は軒並み金利が高い状態でしたから、かなりたくさんのスワップ金利を受け取ることができました。二重の喜びですね。

そして、もう1つ大きなメリットがあります。円安になるということは、円の価値が下がっていることになります。日本にいとピンとこないかもしれませんが、これは円高よりも怖いことです。「円の価値が下がる」ことを防ぐ方法として、FXを利用することができます。

このように、FXは、円高になっても円安になっても、景気が良くても悪くても、利益をあげるチャンスがある魅力的な金融商品なのです。

## 第2章

## 「FXの仕組みと基本」を理解しよう

## 009

FXで儲けるためには  
「4つのスキル」を理解しよう

口座を開設して外国為替市場へ“出陣”する前に、身に付けておく必要がある「4つのスキル」を説明しておきましょう。これらのスキルは、FXで利益をあげるためだけでなく、ご自身の資金を守るためにも、とても大切です。投資も「攻守バランス良く」が基本なのです。

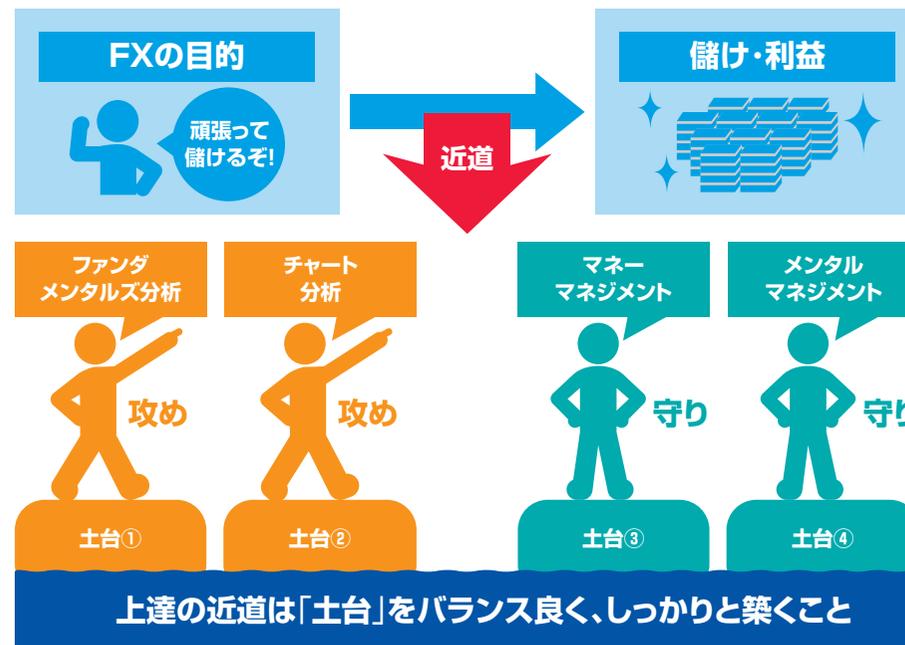
外国為替相場やFXの仕組みについて、だんだん理解が深まり、すぐにも取引してみたいと思っているのではないのでしょうか。

しかし、もう少しおつき合ってください。というのも、FXは口座さえ開設すれば、誰でも、いつでも、取引することはできますが、「利益をあげる」となると、あと4つのスキルを身に付けなければならないからです。

何事も最初が肝心。投資で失敗する多くの人は、「すべてのスキルやノウハウは実戦経験で身に付ける」「やっていればそのうち分かる」という考えを持っていることが圧倒的です。皆さんには、そうした過ちを犯して欲しくありません。実戦でスキルやノウハウを身に付けるということは、大切な資金を、場合によっては「ドブに捨てる」ことになるからです。

## ▶▶まずは「為替レートが動く仕組み」を理解すること

4つのスキルとは、「為替レートが動く経済的な理由」「為替レートが過去にどのような動きをしていたかを知ること」「実戦的な取引と資金管理



の方法」「投資家自身の心を管理する方法」です。

「為替レートが動く経済的な理由」とは、世界の経済がどのように動いているか、それが各国にどのような影響を及ぼしているかということです。これが「ファンダメンタルズ分析」です。外国為替市場はグローバル経済の象徴でもありますから、これを通して経済や金融の仕組みを理解します。

「為替レートが過去にどのような動きをしていたかを知ること」では、「チャート（テクニカル）分析」を使います。「今日の為替レートは××円」というように外国為替相場を点で見ても何も分かりません。やはり、最低でも過去数カ月分の「相場の流れ」を見ることが大切です。そのために必要なのが「チャート」というもの。これと経済の動きとを照らし合わせて各通貨ペアの特徴を把握したり、これからの値動きを予測したりします。

「実戦的な取引と資金管理の方法」では、取引の仕組みとお金をどのように管理すれば良いかを、「投資家自身の心を管理する方法」は投資家が相場に対するとき犯しがちな過ちとその対策を、それぞれ解説します。

・コラム——ちょっとタメになる「ケーザイ・経済」ゼミナール



# 「円高」になると、どうして日本は不況になるの？【2】

円高が急激に進み、それが長期化すると「円高還元セール」を喜んでばかりはいられません。モノの値段が下がることは喜ばしいことですが、それはお金を使う側の話。お金を受け取る側は、収入が減ることになります。消費を控え、将来の不安が大きくなれば、経済の活力は失われます。

「円高」になると日本が不況になる理由について、第1章のコラムでは輸出企業にスポットを当てて考えてみました。今回は、輸入企業とデフレについて解説したいと思います。

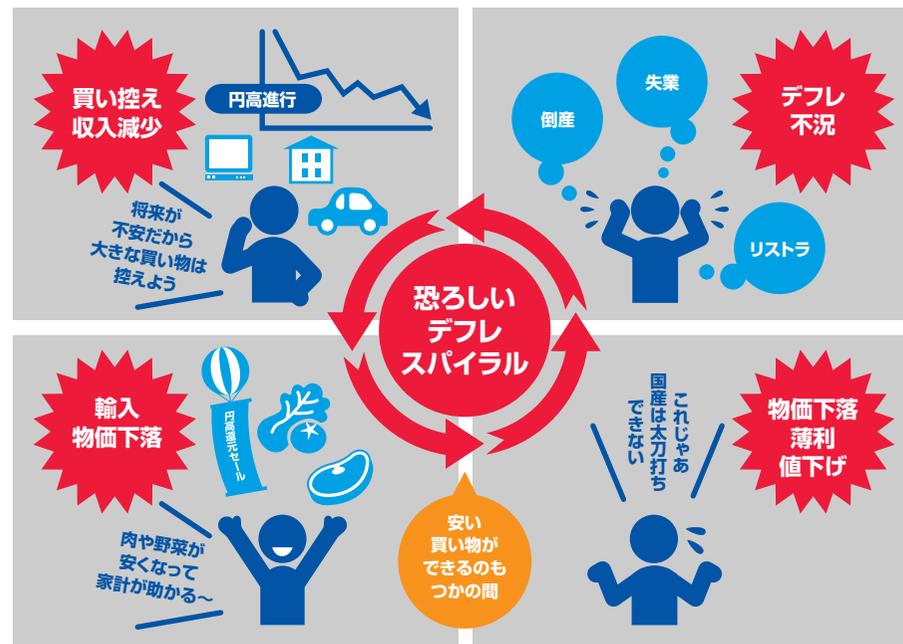
## ▶▶「円高還元セール」が景気を悪くする？

「円高」が進むとスーパーや百貨店では「円高還元セール」を実施しますが、これがデフレ不況を進めてしまう元凶のひとつでもあります。

そもそもデフレとは「**デフレーション**」といって、「**モノの値段が下がり、お金の価値が上がる**こと」をいいます。

つまり、デフレは現金や預金ばかりをたくさん持っている人にとっては好ましい面があるものの、一般庶民にとっては決して良い状態ではありません。「肉や野菜、ブランド品が安くなれば、得した気分になれるのに、どうして？」と思われるかもしれませんね。

**モノの値段が下がるということは、それだけ企業や個人を問わず、収入**



が減ることにつながります。つまり、一時的に安い値段で何かを買うことができても、結果的に給料が減ったり、ボーナスがなくなってしまうと、それだけ消費できるお金は減ってしまいます。そこでちょっと怖い話を。

ある家庭の主婦が、スーパーで値下げセールをしていて節約ができると喜んでいました。ところが、その半年後、ご主人の勤めていた会社が倒産してしまいました。よくよく聞いてみると、ご主人が勤めていたのは、値下げセールで無理な値引きを強要された会社だったのです。笑い話にもならない本当の話ですが、だからデフレは怖いのです。

モノの値段がこの先も下がると分かれば、不動産や自動車といった高額な買い物を控えるはず。しかも、景気が悪ければ、これまで5年で買っていた自動車を10年くらいは乗ろうと、ますます消費を控えるようになります。そうなれば、企業だけでなく、そこに勤める人たちも、下請け企業に勤める人たちも、収入が減るだけでなく、将来的に不安になります。また、お金を使わないように……。これがデフレ・スパイラルです。